

基本的に見開き2ページで構成しているが、「いじめ対応」「不登校対応」については、総合的な対応が必要であるため、4ページで構成している。左ページには、問題場面と若年経験者教員・保護者の気持ち、それに対するアドバイスを、右ページには解決に必要なカウンセリング理論や対応方法等、さらに具体的解決方法を示した(図27)。

まず、理論や知識が必要となる「困っている場面」を提示している(①)。状況を理解しやすくするために、問題場面での子供や保護者の状況や教員の対応を具体的に表した(②)。また、保護者と若年経験者教員のそれぞれの気持ちを吹き出し(③④)にし、双方の意識のずれがどのように生じたのか示した。また、アドバイザーからのアドバイス(⑤)では、問題の整理と双方の意識のずれ、右ページに提示した解決方法を示唆した(図27)。

## (2) 活用の仕方

本ハンドブックは、保護者対応で困ったとき、校内での初任者研修や若年経験者教員研修、生徒指導・教育相談等の研修会で活用ができる。

活用の仕方としては、問題場面での教員と保護者の意識のずれを確認できる。どのような点ですれ違いが起きるのか、理解できる構成としている。また、右ページにある解決に必要なカウンセリングの理論や対応方法等の解説は、理論を学ぶ入口ともなっている。より詳しく理論を学ぶことができるよう、それぞれのページにはその理論や対応方法等を著した参考文献も掲載している。

保護者の気持ちを理解し、保護者の立場で考え、「10のアプローチ」を活用し、保護者との信頼関係の構築をめざしたい。

## VI 研究のまとめ

### 1 成果

(1) 保護者の要望は、「わかってほしい」「かかわってほしい」気持ちから

保護者の電話相談等の分析から、「わかってほしい」「かかわってほしい」という気持ちが、不満や要望につながっていることが明らかになった。保護者や子供たちは、「わかってもらえる」そして「聞いてくれる」関係を求め、相談する側の「何とかしてほしい」という気持ちをもっている。教員が保護者と相談できる関係で、その気持ちを理解して言葉をかけたりこまめな連絡をとったりするなど、気持ちをわかってもらった対応を望んでいることがわかった。

(2) 若年経験者教員の保護者対応の不安は「経験・知識不足」「指導力不足」から

アンケート調査から、若年経験者教員は、保護者の要望の要因は自分の「経験・知識不足」「指導力不足」と考えていることがわかった。さらに、保護者と教員に意識のずれが生じたとき、保護者側に不満が生じたり不信感となったりしていた。

また、若年経験者教員の成功・失敗体験は表裏であることがわかった。「聴く」「早期対応」「事実確認」「記録」「相談・連絡」「心配な事案に対しての配慮」等のキーワードは成功・失敗体験の両方に見られることがわかった。

(3) 信頼関係構築のために必要な理論と対応方法として「10のアプローチ」をまとめた

調査結果より、若年経験者教員は、保護者からの要望の要因を、自らの「経験・知識不足」「指導力不足」にあると考え、それが「対応の経験が少ない」「対応の方法がわからない」という辛さにつながっていることがわかった。その悩みを軽減し、保護者との信頼関係を築くために必要な教育相談理論や対応方法等を精選し、「10のアプローチ」(表16)としてまとめることができた。

(4) 「保護者との信頼関係づくりハンドブック」を作成した

「10のアプローチ」を、学校現場で活用しやすいように「若い先生のための保護者との信頼関係づくりハンドブック」(図27)にまとめることができた。活用の仕方としては、問題場面での教員と保護者の意識のずれを確認できる。どのような点ですれ違いが起きるのか、理解できる構成とし、右ページにある解決に必要なカウンセリングの理論や対応方法等の解説は、理論を学ぶ入り口ともなっている。より詳しく理論を学ぶことができるよう、それぞれのページにはその理論や対応方法等を著した参考文献も掲載した。このハンドブックは、保護者対応で困ったとき、校内での初任者研修や若年経験者教員研修、生徒指導・教育相談等の研修会で活用ができる。

本ハンドブックは、当センターホームページ (<http://cms2.chiba-c.ed.jp/kosapo>) に掲載し、ダウンロードして活用できるようにした。

## 2 課題

(1) ハンドブックを活用した研修の実施

保護者と信頼関係を築くために、理論や対応方法等の知識は必要であるが、同時に子供のより良い成長を願い、共に考える姿勢が基盤となる。その本質を、若年経験者教員が理解して実践するためにハンドブックを活用した研修を充実させることが必要である。

(2) 「10のアプローチ」を入りに能動的な学びを

保護者との信頼関係を築くためのアプローチは、「10のアプローチ」だけではない。ハンドブックの理論や対応方法を実践で活用するとともに、若年経験者教員自らが保護者との信頼関係を築くために何が必要かを能動的に見つけていく姿勢をもつことが必要である。

## 参考文献

- 学校問題解決の手引き～保護者との対話を活かすために～ 東京都教育委員会 2010
- プロカウンセラーが教える はじめての傾聴術 古宮昇 ナツメ社 2012
- カウンセリングの技法 国分康孝 誠信書房 1979
- ブリーフセラピーの極意 森俊夫 ほんの森出版 2015
- 自分を勇気づける技術 岩井俊憲 同文館出版 2013
- 保護者とつながる教師のコミュニケーション術 小林正幸 早川恵子 東洋館出版社 2015
- 「気になる」保護者とつながる援助 「対立」から「共同」へ 楠凡人 かもがわ出版 2008
- 「空気が読めない」という病 大人の発達障害の真実 星野仁彦 ベスト新書 2011
- よくわかる学校心理学 水野治久 石隈利紀 田村節子 田村修一 飯田順子編 ミネルヴァ書房 2013
- 石隈・田村式援助シートによるチーム援助入門 石隈利紀 田村節子 図書文化社 2003
- 学校心理学 教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス 石隈利紀 1999
- 学校と関係機関等との連携～学校を支える日々の連携～ 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2011
- もうひとりで悩まないで！教師・親のための子ども相談機関 小林正幸 嶋崎政男 ぎょうせい 2005
- 授業参観&保護者会 成功の極意 サークルやまびこ 明治図書 2016
- 学級通信を出しつづけるための10のコツと50のネタ 石川晋 学事出版 2015
- いじめ予防と対応 Q&A73 菅野純 桂川泰典 編著 明治図書 2012
- 不登校 予防と支援Q&A70 菅野純 明治図書 2008
- <タイプ別・段階別>続 上手な登校刺激の与え方 小澤美代子 編 ほんの森出版 2006

## 研究報告関係者名簿（敬称略）

### 【通年講師】

文教大学教育学部 教授 会沢 信彦

### 【研究協力校】

A 小学校

B 小学校

C 中学校

D 中学校

E 高等学校

F 特別支援学校

### 【担当所員】

所長	安藤 久彦（平成27年度）
所長	鍵山 智子（平成28年度）
次長	塚本 剛（平成27年度）
次長	伊藤 俊和（平成28年度）
教育相談部長	岡 清志（平成27年度）
教育相談部長	酒井 純（平成28年度）
教育相談部 研究指導主事	入江 浩二
研究指導主事	松田 憲子
研究指導主事	齋藤 美枝
研究指導主事	川崎 妙子（平成27年度）
研究指導主事	勝原 圭介（平成28年度）
指導主事	小宮 和則
指導主事	篠宮 輝幸（平成27年度）
指導主事	宮坂 拓也（平成28年度）

※通年講師については、平成27・28年度継続依頼

※研究協力校については、平成27年度依頼

※担当所員については、（ ）内は担当年度、その他は平成27・28年度継続担当



研究報告 第15号

---

---

平成29年3月31日

編集発行者 千葉県子どもと親のサポートセンター所長

鍵山 智子

発行者 千葉県子どもと親のサポートセンター

〒 263-0043

千葉市稲毛区小仲台5-10-2

TEL 043 (207) 6032

FAX 043 (207) 6041

---

---